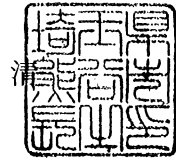


熊道路収第123号

平成20年10月16日

国土交通省道路局長 様

熊谷市長 富 岡



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号にて、依頼のありました標記の件につき、別紙のとおり回答します。

担当 建設部道路課 松葉・長谷川

TEL 048-524-1111 内線 457

- ・道路特定財源については、平成21年度から一般財源化されることが閣議決定されているが、その際、地方財政に影響を与えないよう十分な措置を講じること、また、必要な道路整備を計画的かつ着実に進めるため十分な財源を確保すること。
- ・引き続き事業の重点化・効率化を進め、市民との協働により理解・共感が得られるような道路行政を進めること。
- ・現在、国から地方への権限委譲に向けた議論が進められる中で、直轄国道の地方への移管について検討がなされており、国道17号がその候補として上がっているが、大宮国道事務所において平成20年10月に検討委員会を立ち上げ、バリアフリー整備、自転車走行環境の整備、景観整備等の三位一体となった道路空間の整備を今後5年間程度予定していることから、当面の間、移管は適当でないと考ええる。

②－１ 地域の現状と抱える課題

埼玉県熊谷市

○現状

- ・多極分散型国土形成促進法等、業務核都市として位置付けられており、国土形成計画に示された自立都市圏として発展を目指し、平成２１年４月の特例市移行を予定している。
- ・国道１７号を始めとする国道９路線が結束する関東の交通の要衝となっており、周辺地域の交通手段は自動車への依存度が高いことから市内各地で交通渋滞が発生している。
- ・埼玉県は、交通事故による死亡者数が全国ワースト８位で全国平均の２倍と多く、県内でも特に当市は、交通事故死亡者数・発生件数ともに非常に多くなっている。
- ・５人に１人が６５歳以上という高齢社会を迎えている。
- ・昨年当市では、４０．９度の国内最高気温を記録しており、地球温暖化対策等の環境問題への積極的な取り組みが必要である。

○課題

- ・地域の自立と活力の強化
(慢性的な交通渋滞への対策・幹線道路ネットワークの形成)
- ・安心安全の確保
- ・環境の保全と豊かな生活環境の創造
(地球温暖化対策、高齢社会に対応した道路整備)

熊谷市は、関東平野の中央、埼玉県の北部にあり、東京都心から約50～70km圏に位置し、国道17号を始めとする国道9路線、上越新幹線をはじめとする鉄道3線が結節する、埼玉県北部地域の交通拠点として発展してまいりました。

また、多極分散型国土形成促進法や首都圏基本計画により、業務核都市として都市機能の集積を図ることが位置付けられており埼玉県北部の自立した中心都市から、関東甲信越地域の広域ネットワークを形成する都市としてさらなる飛躍を目指しております。

こうしたなか、当市は関越自動車道や東北縦貫自動車道、首都圏中央自動車連絡道路、北関東自動車道に囲まれておりますことから各インターチェンジとのネットワークを強化し、高速道路までを短時間で結ぶ道路網の整備を目指しており、活力ある地域経済を支え都市基盤の骨格となる広域的なアクセス性を高める広域連絡道路の整備を促進してまいります。

また、全国的に有名な夏の暑さを、人やまちの活力に変えていこうという「あついぞ！熊谷」の取組みが広く認知されるなか、平成19年8月に40.9度の国内最高気温を記録し、名実ともに日本一暑いまちとなった当市にとりまして、交通渋滞対策や自転車走行環境の整備等、CO₂削減に向けた環境問題への取組みは、非常に重要であると考えております。

さらに、当市では、5人に1人が65歳以上という高齢社会を迎えておりますことから、交通弱者の日常生活に配慮したまちづくりを計画的に進める必要があり、これらの道路行政を進める上で、市民と行政との協働により進めることが重要であると考えております。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式 ④

埼玉県熊谷市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域の自立と活力の強化 (慢性的な交通渋滞への対策・幹線道路ネットワークの形成) ・安心安全の確保 ・環境の保全と豊かな生活環境の創造 (地球温暖化対策、高齢社会に対応した道路整備)	・熊谷バイパス柿沼肥塚立体の東京方面へ向けた延伸整備 ・地域高規格道路（熊谷渋川連絡道路、上尾道路）の整備 ・交通事故対策（国道17号熊谷市銀座2丁目交差点等の全国にある死傷事故率の高い区間に集中して対策を講じる。） ・自転車走行環境の整備（モデル地区から戦略的に展開する。） ・慢性的な交通渋滞への対策 ・「あつさはればれ 熊谷流」プロジェクトと連携した整備（遮熱性舗装、保水性舗装、緑化推進、冷却ミスト設置等のヒートアイランド対策） ・熊谷市交通バリアフリー基本構想に基づく整備（段差の解消、安全な歩行空間の確保、案内標識の整備等、主要施設をバリアフリー化して連絡する。）	・広域交通網の強化 ・高速道路までの所要時間を短縮 ・渋滞損失時間の削減 ・自動車交通の年間CO₂排出量を削減 ・死傷事故率の削減 ・交通安全の向上 ・自転車利用促進などに伴うCO₂削減による温暖化防止 ・ヒートアイランドの緩和 ・生活環境、利便性の向上 ・主要施設へのアクセス性向上 ・バリアフリー化	